

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、地域の文化や伝統を尊重し、「生きる力」の理念を重視する。社会の一員として、生涯と通し知・徳・体の調和のとれた心身とともに健康で人間性豊かな児童の育成を目指し、成長の礎を築く。さらに、あたたかな学習集団を育み、学んだことを必要なときに使い、未来を切り拓いていく児童の育成を図る。

【○ゆたかな子 ○かながえる子 ○つよい子】

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○子供も教師も明るく生き生きと輝いている学校 ○子供・教師・保護者・地域の願いや想いを大切にする学校 ○保護者・地域から「おらが学校」として信頼され共に子供を育成する学校
○児童・生徒像	○新しいことに挑戦し、失敗からも学び、やりきることのできる子供 ○明るくいきいきと自己表現する子供 ○思いやりの心を持ち、目を輝かせて学び、遊び、働く子供 ○人や自然と積極的に関わり、共に生きる子供
○教師像	○子供と共に汗し、喜びや悲しみを分かち合う教師 ○子供のよさや失敗を認め、励まし、子供の学びにつなげることのできる教師 ○温かな学習集団を創り日々の授業の充実を目指して、挑戦する教師 ○学校運営やPTA、地域行事に進んで取り組む教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 学校の現状

- ・令和6年度は、1、2年生が1学級、3～6年生が2学級、ひまわり2学級の全12学級の編成。児童数は近年減少傾向にあり、令和7年度は新1年生が38名の久しぶりの2学級のスタートになった。令和7年度は全校児童269名でスタートした。
- ・小規模のよさを生かし、1年生からの少人数算数授業の実施、あたたかな学集団づくりを継続的に取り組んできている。落ち着いた雰囲気の中で、基礎学力が身につく、学びに向かう児童が育成できている。学んだことは必要なときに使えることを目指し、授業、教育活動に臨んでいる。また、ひまわり学級（特別支援学級）、たんぼぼ（コミュニケーションの教室）の教育活動の充実を図り、様々な取組を共に、インクルーシブな教育活動を学校全体で行っている。
- ・令和6年11月には創立80周年記念式典・祝賀会等が地域の皆様のご協力で行うことができた。令和6年度は体育館照明のLED化、校庭の照明の設置工事が行われ、令和7年度、門扉、外柵の改修工事を行う予定である。

2 成果と課題

【成果】

「梅二小学習スタンダード」「梅二小生活スタンダード」の学習と生活指導の両輪で、学びに向かう朝のルーティーンを作ってきた。学びに向かう児童、学習規律が整ってきていった。1学年35人 2学年30人の1クラス、3年生以上は25人前後の2クラスの少人数で、あたたかな学習集団の中で取組を行ってきた。また、4月実施の区学力調査を受け、SP表を作成し分析を行った。学校全体2教科で昨年度に引き続き通過率が80%を超えたが、2学年は国語通過率が60.7%、5年・6年の算数がおおよそ70%と課題があった。2年生では日常の授業等を通して、文字を丁寧に書くこと、ノート指導、文字と意味を繋げる、書き表す等、学びの基礎を身につけさせるための指導を行った。結果、2月に実施した区の学力調査問題（自学年）の通過率は国語94.2%、算数85.0%、2教科89.5%であった。昨年度に引き続き学校全体では2教科で80%を超えるようになってきている。

【課題】

- ・学力向上に関して、基礎的な力が次第についてきている。が、算数では、計算の決まりの活用、割合等個別に補充する必要がある。さらに、学んだことをもとに考えたり、表現したり、交流の質を向上させたりすることが課題である。
- ・AIドリルの活用等ICTの活用、情報モラル
- ・特別支援教育、不登校（登校渋り）対策
- ・魅力ある学校づくり

【対策】

- ・低学年での学びの基礎を身につけさせる。（かな文字の読み書き MIMアセスメントの活用） ノート指導 音読指導
- ・文字を言葉のまとまりとして捉えて書くことに慣れる。（MIM 視写の活用）
- ・つまずきの解消（1年生から算数習熟度別指導 放課後補充指導 AIドリル等の活用 サマースクールの活用）
- ・家庭との連携（月1回の家庭学習奨励期間 自主学習の奨励）

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
1	学力向上アクションプラン（必要なときに使える学力の基礎を身につける）	○	○	◎	○	○
2	個の尊重とあたたかな人間関係の育成	○	○	○	○	○
3	体力の向上と健康・安全	○	○	○	○	○

5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項－ 1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
足立区学力調査の目標とする通過率の向上と正答率の向上を目指す。		区学力調査の目標通過率の目標を学校全体で 80%を目指す。正答率：低学年（80%）高学年（70%）を目指す。				自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み									
新規・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

1 新規	授業の充実	全学年 国語科・算 数科	通年	・足立スタンダードの推進（用語 の活用・虎の巻の活用） ・振り返りの重視（書いて まとめる） ・ICT の活用	区学力調査問 題 単元テスト	目標値達成 国語 80%以上 算数 80%以上	自己評価の際に記入
2 継続	主体的・対話 的な学習ので きる集団づく り	全学年 道徳科 特別活動	通年	・Hyper-QU（Web）の活用 学びの中心となる学級の あたたかな学習集団づく り ・学年で分析・工夫改善	年2回の Hyper-QU の実 施 満足群の増加	満足群半数以上	
3 継続	習熟度別指導 授業 ・補充	全学年 算数科	授業時間 放課後	1年：週4時間 2年以上 週5時間の習熟度別指導 週2回放課後補充教室	単元テストお よびベーシッ クドリル	80%以上の児童が 単元テストで 80 点以上	
4 継続	ICT 機器・タ ブレット等の 活用	全学年 全教科	通年	・交流のツールとしての活 用 AIドリル（読解・幹事学習も）、 適所で ICT 機器の活用 ・計算の習熟・漢字の読み や意味調べ・調べ学習	週案 アクセス数等	タブレット・AI ドリ ル等 ICT 機器の 活用数2回/日以 上	
5 継続	タブレットの 文字入力	高学年 国語科・総 合	通年	タイピングソフトの活用 ローマ字入力	文字入力数	3分間で80文字 以上達成	
6 継続	読みの基礎の 定着	1学年 国語科	通年	MIM の活用 特殊音節の読みに焦点	MIM アセスメント	3rd ステージ 0	
7 継続	朝学習 （パワーアップタ イム）	全学年 国語 算数	週3回 10分間	3分間視写 読書 計算 読解ドリル等	視写ファイル 等	視写速度等の向 上・定着	
8 新規	学校図書館 の活用	全学年 国語科・ 総合	通年	司書教諭、図書館支援員を 活用し、調べる学習で学校 図書館の利用、国語の学習 と読書の推進	調べる学習コ ンクール参加 者の増	調べる学習コン クール参加者の 増	

重点的な取組事項－ 2		個の尊重とあたたかな人間関係の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自分の心との対話の育成 道徳教育の充実 感謝の気持ちの醸成		児童アンケート調査 (7月 12月の計2回実施) ・「挨拶」「正しい言葉遣い」「良好な 友達関係」4段階のB以上 90%以上	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
道徳科の授業の充実	・道徳教育の要として道徳の授業の改善・充実	・ポートフォリオの活用（全学年）ICT機器の活用 ・「思いやり」「生命尊重」の項目の重点的な扱い	自己評価の際に記入		
「言葉は心」 挨拶・あたたかな言葉遣いと返事の励行	・児童アンケート調査 「挨拶」「正しい言葉遣い」B以上 90%以上	・生活指導目標・言葉の月目標について具体的指導の実施 ・あたたかな言葉遣い、文で話す指導（～です。～ます。を基本）			
自尊感情・規範意識 思いやりの心の育成	・児童のアンケート調査 「良好な友人関係」B以上 90%以上	・アンケート・SSTの活用 ・フェルマータ・タイムの活用 自分の行動や心の振り返りの対話の時間を設ける。 ・特別支援教育個別の手法の共有 校内委員会（月1回）			

重点的な取組事項－ 3		体力の向上と健康・安全			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
心身ともに健康な児童の育成 運動に取り込む意欲や気持ちをコントロールし最後までやり遂げる児童の育成 児童の安全意識の向上		・生活調査アンケート「早寝」80%「早起き」90%「朝ご飯」98%	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
落ち着いた生活習慣の確立	・登校、朝の時間のルーティンづくり 「早寝」80%以上「早起き」90%以上「朝ご飯」98%以上	・基本的な生活習慣、授業規律、名札の着用、手洗い・うがい等の指導を通し学習に向かうルーティンをつくる。 ・フェルマータ・タイムの活用 学習に向けた午後の落ち着いた生活習慣づくり	自己評価の際に記入		
体力の向上	・体育科の実践、外遊びの励行 ・姿勢・体幹・学習体力を意識した取組	・多様な動きをつくる運動を年間計画に組み込む。 ・業間の活用（児童教員と共に活動・場の工夫） ・姿勢の保持			
健康教育と食育の推進	・食育の授業「もりもりウィーク」の実施	・保健指導、保健だより等を活用し、家庭との連携・自己評価による早寝・早起き・朝ご飯の習慣化 ・「給食だより（月１回）」「郷土食」「もりもり給食ウィーク（年３回）」等食育の推進			
安全・防災教育の推進	・環境の変化・想定範囲を拡張した避難訓練の実施（諸機関との連携） ・安全指導の実施	・諸機関との連携、地震、水害、不審者対応訓練等の実施 ・水害時マタイムラインの活用 ・アレルギー対応訓練（年度初め） ・自ら危険予測、危険回避能力の育成			